

ところである。取り組みの中には、段階的に進める必要があるもの、一定期間継続することで効果が発揮されるものも多く、今後も地域の人々の意見を聴きながら対策を講じ、生活環境の維持・向上を図りつつ、持続可能で快適な観光地を目指していく必要があると考えている。

問 令和7年度一般会計予算の特徴は何か。

答 ことも・子育て施策の推進や都市基盤の整備とともに、市民センター建設、地域経済の活性化、オーバーツーリズム対策等の取り組みに重点的に予算を配分した。

問 各部署からの歳入および歳出の予算要求額の乖離額98億円を解消するための取り組みは。

答 各事業の緊急性や優先度等を考慮し経費の圧縮を図るとともに、過去の決算状況等を踏まえ、一般財源の精査を行った他、繰入金を計上する等の財源対策を講じた。

問 本予算において特徴のある国や県からの支出金は。

答 前年度当初予算と比較すると、国では児童手当の拡充による児童手当国庫負担金、県では障害者自立支援給付費負担金の増等が挙げられる。

問 みよしの支援センターおよび職業センター集約化事業において、職業センターを活用する想定はしたのか伺う。

答 どちらの施設へ集約するかを検討する中で、利用者の公共交通機関等によるアクセスを分析し、将来的な利用者の利便性を考慮して、立地条件の良いみよしの支援センターへ集約化することとした。

問 帯状疱疹ワクチンの接種に当たってのリスクについて、事前にどのように周知を図っていくのか伺う。

答 他のB類疾病の予防接種と同様に、接種の効果と副反応について、広報川越や市ホームページに情報を掲載して周知するとともに、ワクチン説明書にも情報を掲載することにより、市民が適切に判断できるよう努めたい。

問 重要施策の一つである男女共同参画推進を市長に伺う。

答 あらゆる施策にジェンダー平等の視点を持ち、川越市男女共同参画基本計画を推進し、一人ひとりが生き生きと暮らせる社会の実現を目指していきたい。

問 障害・高齢者・児童福祉をどう考え取り組むのか伺う。

答 川越市障害者支援計画やすこやかプラン・川越、(仮称)川越市子ども計画を推進し、全ての市民が年齢や障害に関係なく、助け合いながら暮らしていくことのできる地域共生社会の実現を目指していきたい。

問 食材調達が厳しい学校給食における物価高騰対策は。

答 今後も継続して食材価格の動向を注視し、適正規模への対策を講じていく。

問 令和7年度一般会計予算における市立小中学校図書館

および市立図書館での人件費等を確認したい。

答 小学校の学校司書の報酬が約2700万円、図書等の購入費が約1008万円、中学校の学校司書の報酬が約1800万円、図書等の購入費が約449万円、図書館の職員の給与が約3億5100万円、図書等の購入費が約2235万円である。

問 財政調整基金の年度末残高に対する市長の考えは。

答 安定した行財政運営を行っていくために必要なものであるため、一定の残高は確保していく。

問 直近5年間で、財政調整基金の残高見込みが年度中に5億円を下回った年度について伺う。

答 令和2年度から令和5年度までの各年度において、当初予算または補正予算の編成に伴う財源として基金を活用したことにより、5億円を下回った時期があった。また、令和3年度において利子を除く年度末残高見込み額が6701万3千円と最小となった。

問 市長は肉付け予算の財源として何を想定しているのか。

答 国、県からの交付金や財政調整基金、市債などの活用について、今後の財政状況を踏まえて検討していく。

問 高齢者補聴器購入費補助の申請期間の考え方を伺う。

答 令和6年度は7月16日～12月27日が期間で、終期は年度末までに領収書を添えた請求書を提出してもらうことを踏まえた。令和7年度は期間を長く確保していきたい。

問 こどもの居場所づくりについての具体的な取り組みは。

答 こどもがまた来たいと思えるよう、物品の充実や開設日の固定化、夜間開設日を増やす取り組みを検討する。一部公民館への開設に向け教育委員会と協議を進める。

問 川越シャトルやかわまるの充実をどのように実現していくのか市長の見解を伺う。

答 公共交通の維持・確保は重要な課題であり、川越シャトルとかわまるの効果的・効率的な運行を目指し、地域の実情を踏まえ、かわまるの乗降場増設等を検討する。

問 北部市街地での歩行者天国を試行的に実施する目的は。

答 今後、北部市街地交通対策の在り方について地域住民と検討していくための基礎材料とすべく、交通規制による実態上の影響を把握することを目的としている。

問 歩行者天国の実施について、周辺道路の渋滞対策はどのように行うのか。

答 事前周知や公共交通の利用の呼び掛け、混雑予測の発信や迂回誘導案内の充実等を図り、北部市街地内への車両の流入を抑制し、周辺道路の交通量の削減に努める。

問 北部市街地の交通対策について、市長の考えは。

答 伝統的な町並みを生かしたまちづくりが重要であり、地域の声を丁寧かつ真摯に聴きながら、生活環境を確保しつつ、安全安心な交通環境を目指し検討していきたい。